

2023年度全国通訳案内士試験

<2次セミナー>

(第1講)

ハロー通訳アカデミー
学院長 植山源一郎

目次

<第1部>基本情報

【1】2023年度第2次口述試験「ガイドライン」

- 1… (1)試験方法
- 1… (2)合否判定
- 2… (3)評価項目
- 2… (4)合否判定基準の変遷のまとめ
- 2… (5)「ガイドライン」の3つの変更点のまとめ
- 2… (6)「通訳問題」を「外国語訳＋質疑」に変更した理由
- 3… (7)「プレゼンテーション＋質疑」
- 3… (8)「プレゼンテーション＋質疑」と「外国語訳＋質疑」
- 3… (9)＜ガイドマニュアル＞

【2】第2次口述試験の予定内容と注意事項

- 4… (1)全国通訳案内士試験口述試験の予定内容について
- 5… (2)全国通訳案内士試験口述試験 受験上の注意事項

<第1部>基本情報

【1】2023年度第2次口述試験「ガイドライン」

2023年度第2次口述試験「ガイドライン」は、2018年度～2022年度と同じで、下記の通りです。なお、下記の赤字部分は、新「通訳案内士法」が施行された2018年度より新たに付け加えられた変更点です。

【1】試験方法

- (1)試験は、総合的な外国語の能力並びに日本地理、日本歴史、一般常識及び通訳案内の実務に係る正確な知識を活用して行われる、通訳案内の現場で必要とされるコミュニケーションを図るための実践的な能力について判定するものとする。⇒「ガイドマニュアル」(P. 3)
- (2)試験を受けることができる外国語は、受験者が筆記試験において選択したものと同一のものとする。
- (3)試験は、外国人観光旅客が多く訪れている又は外国人観光旅客の評価が高い観光資源に関連する地理、歴史並びに産業、経済、政治及び文化についての主要な事柄のうち、外国人観光旅客の関心の強いものを題材として、受験者に通訳案内の業務を擬似的に行わせることにより実施するものとする。
- (4)試験時間は、10分程度とする。
2013年～2014年のガイドライン⇒「8分程度」と記載。
2015年～2019年のガイドライン⇒「10分程度」と記載。(一人10分刻みで1時間に6名)
2020年～2022年のガイドライン⇒「10分程度」と記載。(一人12分刻みで1時間に5名)
- (5)終了者からの問題の漏洩を避けるため、当該時間帯の間、終了者を未受験者と別の部屋に待機させ、通信機器を預かる等の措置を取るとともに、時間帯によって大きな差が出ないように質問内容のレベルを合わせるなど、受験者間で不公平が生じないような方法とする。
- (6)内容は、
 - ①試験委員が読み上げる日本語を外国語訳し、その問題文に関連した質疑を行う「通訳案内の現場」で必要となる知識等に関する外国語訳及び全国通訳案内士として求められる対応に関する質疑、
 - ②提示される3つのテーマから受験者が1つを選び、外国語で説明を行い、そのテーマについて試験委員と外国語で質疑応答を行う「プレゼンテーション問題」の2題とする。なお、「通訳案内の現場」で必要となる知識等に関する外国語訳及び全国通訳案内士として求められる対応に関する質疑において、試験委員が読み上げる問題内容については、メモを取ることを認める。⇒「試験の流れ」(P. 6)
2013年～2017年(5年間) ①<通訳問題> ⇒②<プレゼン問題+質疑>
2018年～2022年(5年間) ①<プレゼン問題+質疑> ⇒②<外国語訳問題+質疑>
- (7)「通訳案内の現場」で必要となる知識等に関する外国語訳及び全国通訳案内士として求められる対応に関する質疑については、試験委員に対して、受験者は全国通訳案内士としての適切な受け答えをすること。

【2】合否判定

合否判定に当たっては、試験委員ごとに基準が大きく異なることがないよう、あらかじめ以下を含む評価項目について、具体的な評価基準を設定しておくものとする。合否判定は、当該合格基準点(原則として7割)に達しているか否かを判定することにより行う。

【3】評価項目

- (1)プレゼンテーション
- (2)コミュニケーション(臨機応変な対応力、会話継続への意欲等)
- (3)文法及び語彙
- (4)発音及び発声
- (5)ホスピタリティ(全国通訳案内士としての適切な受け答え等)(2018年度から追加された)

【4】合否判定基準の変遷のまとめ

●2013年～2015年(3年間)

上記の評価項目(1)～(4)について、下記の5段階評価(5点満点)を行い、評価点が3点～5点が合格、1点～2点が不合格とされた。4つの評価項目の中で、1項目でも1点～2点があれば、総合判定で不合格とされた。日本人、外国人試験官の評価が異なる場合は、両者の協議により合否が決定された。

- 5点(合格) :Excellent
- 4点(合格) :Very good
- 3点(合格) :Good
- 2点(不合格):Poor
- 1点(不合格):very poor

●2016年～2017年(2年間)

上記の評価項目(1)～(4)について、合格基準点(原則として6割)が合格とされた。

●2018年～2022年(5年間)

上記の評価項目(1)～(5)について、合格基準点(原則として7割)が合格とされた。

●受験者は、合否判定基準を気にする必要はない。

受験者としては、合格基準点が7割になろうが、評価項目にホスピタリティが加わろうが、あまり気にすることなく、直面する質問に神経を集中させて全力を尽くせばよい。

【5】「ガイドライン」の三つの変更点のまとめ(2018年度から)

(1)「通訳問題」が「外国語訳+質疑」になったこと

2017年度では「通訳」とされた問題が、2018年度から『試験委員が読み上げる日本語を外国語訳し、その問題文に関連した質疑を行う「通訳案内の現場」で必要となる知識等に関する外国語訳及び全国通訳案内士として求められる対応に関する質疑』になったこと。

(2)合格基準点が7割になったこと

2017年度までは6割だった合否判定の合格基準点が、2018年度から7割になったこと。

(3)評価項目にホスピタリティが加わったこと

2017年度までの4項目に、2018年度から「ホスピタリティ(全国通訳案内士としての適切な受け答え等)」が加わり、合計5項目になったこと。

【6】「通訳問題」(2013年～2017年)を「外国語訳+質疑」(2018年以降)に変更した理由(重要！)

「通訳問題」を「外国語訳+質疑」に変更した理由について、関係者の話を総合すると、下記のような理由が判明しました。

- (1)全国通訳案内士試験は、プロ通訳と同等レベルの通訳技能を求めているわけではない。
- (2)これまでの「通訳問題」では、プロ通訳の厳密な逐次訳を求められているような印象を受験者に与えるので、「通訳問題」を「外国語訳」に名称変更した。

(3)「外国語訳」だからと言って、大まかな訳が良いということではなく、できる限り、正確で分かりやすい訳が望ましいことは言うまでもない。

受験者は、上記を前提にした心構えで、準備をすることが大切です。

【7】「プレゼンテーション+質疑」

「プレゼンテーション+質疑」については、特に変更はありませんが、大前提が「**通訳案内の現場**」で求められるプレゼンテーション能力が問われるということなので、受験者は、様々な**通訳案内の現場**で想定されるプレゼンテーションの準備が必要です。

●2022 年度に「プレゼンテーション」に出題された 36 題のテーマと受験者が選択したテーマ

()内の数字は、<2次レポート>提出者(106名)の選択したテーマの人数を示す。

- (1) 門松(7)、接客ロボット(1)、中山道(0)
- (2) お守り(11)、計画運休(2)、鳴門海峡(0)
- (3) わさび(9)、海女さん(2)、金の鯨鋒(0)
- (4) 道の駅(9)、漆塗り(3)、線状降水帯(1)
- (5) 西九州新幹線(8)、俳句(4)、なまはげ(0)
- (6) おみくじ(7)、佐渡金山(0)、古民家(0)
- (7) 床の間(3)、中華街(2)、恵方巻(0)
- (8) たい焼き(5)、グランピング(1)、白河の関(0)
- (9) 杉玉(2)、小笠原諸島(2)、セルフレジ(2)
- (10) 借景(4)、赤飯(2)、竿燈祭り(0)
- (11) 1人カラオケ(4)、麴(3)、山寺(0)
- (12) うどん(8)、豊洲市場(3)、大安吉日(0)

●2022 年度<2次レポート>

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/c/a326cde70444de77ccbb5ef8927b4ff6>

【8】「プレゼンテーション+質疑」と「外国語訳+質疑」

要するに、受験者は、従来の4項目の評価項目に加えて、**ホスピタリティ**を意識しながら、合格基準点 **7割**獲得を目指して、「プレゼンテーション+質疑」と「外国語訳+質疑」の準備をする必要があるということです。

【9】<ガイドマニュアル>

「**通訳案内の現場**」で求められるプレゼンテーション能力と**ホスピタリティ**がどのようなものかを知るためには、下記の <ガイドマニュアル>に優る教材はありません。

<ガイドマニュアル>(富士山・箱根)

<http://hello.ac/manual.fuji.pdf>

<ガイドマニュアル>(日光)

<http://hello.ac/manual.nikko.pdf>

<ガイドマニュアル>(鎌倉・横浜)

<http://hello.ac/manual.kamayoko.pdf>

<ガイドマニュアル>(通訳案内の現場で必要とされるトラブル対応方法)

<http://www.hello.ac/troubleshooting.pdf>

【2】第2次口述試験の予定内容と注意事項

第1次筆記試験合格者(免除者)に対して、JNTO から①「予定内容について」②「受験上の注意事項」と題した文書が提供されます。

「ガイドライン」が第2次口述試験の概要であり、①「予定内容」と②「注意事項」がその実施細目になります。

①全国通訳案内士試験 口述試験の予定内容について

1. 試験時間は全体を通じて 10 分程度です。
2. 口述試験の進め方は以下の通りです。
 - ① 受験者は、その場で配付される日本語で書かれた 3つのテーマから 1つを選択し、そのテーマについて受験外国語で 2分程度のプレゼンテーションを(30秒以内に)行って下さい。
(例題) 1. 絵馬(2013・2017 プレゼン) 2. 高野山(2014・2016・2020 プレゼン)
 3. インスタ映え(2017 プレゼン)
 - ② ①のプレゼンテーションの内容について、受験外国語で質問をしますので、受験外国語で回答して下さい。
 - ③ 次に、(日本人)試験委員が日本語で読み上げる内容について、1分程度で受験外国語に訳して下さい。配付した用紙と筆記用具を用いてメモを取っても構いません。
(例題)
茶道は1杯のお茶で客をもてなす儀式である。茶道では、亭主は決められた作法に従い、ていねいにお茶を用意する。客はその気持ちに応じて、感謝の意を表しながらお茶をいただく。茶道で使われるお茶は抹茶で、和菓子はお茶を飲む前に食べる。
 - ④ ③の内容に関連して、通訳案内の現場で想定される状況に全国通訳案内士としてどのように対応するかを問います。試験委員をお客様と想定し、受験外国語で受け答えして下さい。
(例題)
お客様が茶室に入る前に、茶道には作法や決まり事があると聞いて緊張しています。あなたはお客様に対し、どのように声をかけますか。
3. 2①及び 2③の内容は、全国通訳案内士試験ガイドラインにある、「日本の地理、歴史並びに産業・経済・政治及び文化についての主要な事柄のうち、外国人観光旅客の関心の強いものを題材」とします。なお、上記の出題例は、あくまでも参考例です。
4. 試験委員は 2名(原則として、受験外国語母語話者 1名、日本語母語話者 1名)です。

②全国通訳案内士試験口述試験 受験上の**注意事項**

【1】全般

- (1)携帯電話、パソコン、タブレット、スマートウォッチ、レコーダー、ゲーム機など全ての電子機器の電源をお切りください。通信機能及び録音・録画機能のある機器の使用は、試験が終了して係員から解散の合図の後、建物の外に出るまで使用を禁止します。イヤホン、ヘッドホンも使用禁止です。
- (2)受付後解散までにこれらの機器を使用した受験者の試験は無効になります。
- (3)口述試験終了後も控室にて解散時間まで待機していただきます。解散時間まで控室にて待機いただけない方の試験は無効になります。
- (4)各控室および試験室内は禁煙です。
- (5)各控室では水筒やペットボトルなど、飲み口が密閉できる容器に入った飲料のみ、持ち込み可能です。(移動中は禁止です)

【2】控室内で

- (1)携帯電話等の通信機器・録音機器類は電源を切って、カバン等の中にしまってください。
- (2)質問する場合は、着席のまま手を挙げてください。
- (3)受験者同士会話をしないようにしてください。
- (4)トイレ等で離席したい場合は、着席のまま手を挙げて申し出てください。
- (5)控室から試験室へ移動する時には荷物を全部持って移動してください。
- (6)新型コロナウイルス感染症予防のため、不織布マスクの着用をお願いします。
- (7)メモ用筆記用具(鉛筆、シャープペン、ボールペンのいずれか)以外はカバン等の中にしまってください。筆記用具を忘れた方は、試験室内にある予備の筆記用具を使用してください。

【3】試験直前の控室等での待機中

- (1)係員の指示があるまで待機しててください。
- (2)待機中の受験者同士会話をしないでください。
- (3)試験終了後の受験者は、係員の指示に従って、試験後の控室にて待機してください。

【4】試験室前および試験室内

- (1)試験室への入室は試験室内にいる面接者が指示します。入室したら、手荷物を面接者から指示された場所に置いてください。
- (2)試験室内では、面接者の指示に従ってください。
- (3)試験室における試験時間は、1人当たり**約10分間**です。
- (4)試験室内ではメモ用紙を用意しておりますので、**メモを取っていただいても結構です**。但し、試験終了後、メモ用紙は回収いたしますので、持ち帰らないでください。
- (5)試験中も不織布マスクの着用をお願いします。聞き取り難いことがないよう、はっきりとした発言を心掛けて下さい。

★不正行為をした受験者は、即座に退場していただくとともに、試験が終了している場合でも、その結果は無効となります。

★その他、各控室での待機中は、係員の指示に従ってください。